

## 平成20年度 子どもたちの確かな学力育成のための検討委員会(第3回) 会議録

1 日 時 平成20年12月8日(月) 午後3時～午後5時

2 場 所 生駒市コミュニティセンター 206会議室

3 出席者

(委員)

委員長 大原 裕	副委員長 大島 眞規	委員 西村 徹
委員 井上 宝	委員 辻野 トシ子	委員 山本 公一
委員 朽木 丈二	委員 佐々木 栄	委員 久保 とき代
委員 藤村 義邦		

(事務局)

教育総務部長 大津輪 幹夫	教育総務課長 峯島 妙
教育指導課長 西井 久之	教育指導課課長補佐 井上 廣
教育総務課 楠下 崇子	

4 欠席委員

なし

5 議事内容(要旨)

(1) 第2回検討委員会の会議録の承認について

(委員長) ただ今から「第3回子どもたちの確かな学力育成のための検討委員会」を開催します。

まず、前回の会議録の承認を議題とします。事前配布しております会議録

について、1箇所訂正の申し出がありましたので、事務局に訂正をお願いしまして、承認したいと思います、よろしいですか。

(異議なし)

(2) 小学校における外国語活動について

(委員長) 続きまして、前回に引き続き小学校における外国語活動について、議題といたします。前回、事務局から生駒市独自の施策として3・4年生から取り入れるという提案をいただきましたが、小学校は触れる程度で十分だということのご意見がありました。

(委員) 早くから取り組んでも個人差があり、全員が楽しめる、英語が身につくとは限りません。逆に、言語障がいを引きおこす子どももいます。

コミュニケーションとしての英語であれば、中学英語で十分通用するのですが、文法を間違わないようにと考えると話せなくなります。中学英語での失敗を反省しないと小学校から始めても同じことだと思います。

(委員) 外国語イコール英語と決めてかかるのは教育上どうかと疑問に感じます。他国の文化や他言語に触れるという点では、英語に限ることはないと思いますし、まず日本語をしっかり学んだ上で外国語を学ぶべきではないでしょうか。

(委員) 新学習指導要領で5・6年生の外国語活動は英語と決まっており、目標の一つに外国語の音声に親しむことが定められています。日本人の発音は聞き取れても、外国人の発音は聞き慣れていませんので、子どもの耳をなるべく早くから慣れさせるためにも、英語に接する機会は多いほうがよいと思います。

(委員) 小学校の現場では、不安と戸惑いを抱えています。これまでの英語学習の取組みは各学校によって様々で、学校の中での受け皿づくりが課題となりま

す。日常業務をこなしつつ準備するので、全校が足並みをそろえることは難しいと思いますが、市のほうで、小学校専属のALTを確保していただければありがたいですし、無理のない形でゆっくり定着させてもらいたいと思います。

また、3・4年生で英語を教えるとなると、総合的な学習の時間を割くこととなりますので、学校として残った時間で総合的な学習にどのように取り組んでいくかが課題となります。

(委員) 音に触れるということは大切だと思います。しかし、英語を教えるということは、言葉だけではなく英語圏の文化に触れることでもあるので、生活から切り離れた形では難しいと思います。

(委員長) 最初に英語ありきでいいかという意見がありましたが、この点についてはどうでしょうか。

(委員) 生駒市は学研都市という特性から外国人留学生が居住しており、国際性豊かな都市です。英語に絞らず、身近にいる外国人に親しみながら国際理解の幅を広げることができれば、子どもの興味を引き、総合的な学習としても有意義ではないでしょうか。

(事務局) 英語でなくてものご意見ですが、学習指導要領では5・6年生は英語と定められておりますし、多文化を学ぶ機会、現在でも総合的な学習で取り入れており、今後も学校裁量で取り組んでいただけたらと思います。

生駒市の特色として5・6年生の前段として3・4年生から行ってはどうかという事務局案ですので、よろしくをお願いします。

(委員) 私は、確かな学力とはテストの点を上げることだけではないと思っています。

生駒市は、海外在住経験等により英語に堪能な方や外国人留学生などの地域人材に恵まれていますので、うまく活用しながら英語や英語圏の文化に触

れ、子どもたちに興味を持たせつつ楽しみながら、5・6年生へのつながりとして3・4年生から実施するという考えてください。

(委員) 子どもたちが楽しめる程度でいいと言われても、実はそれが一番難しいのです。教師の力量も関係します。

(委員) 正直なところ私自身、消極的だったのですが、今年は地域人材を活用してクラブ活動や5・6年生でも英語の活動を始めています。先進的に取り組んで来られた学校を視察する機会があったのですが、生駒市でも地域人材とALTを活用すれば、何とかやれるのではないかと感じました。

(委員) 現在、中学校ではALTの先生が定期的に来られていますが、生徒たちを見ていると、授業以外でも自分から英語で話しかけていることがあり、ネイティブの先生の存在は大きく、生の英語に触れることが大切だと感じます。

(委員) 保護者としてはどうお考えですか。行政としては早くから慣れて欲しいと思っただけですが、学校で習う前に英会話教室に通わせようとするご家庭もあると思います。

(委員) 我が家では、子どもを3歳から英会話教室に通わせました。早いうちから音に慣れるという点では有効だったようで、大学生の子どもは今でも会話には苦労していませんが、学校の英語の授業と英会話とは違うと言っています。

ほかのご家庭では、子どもの頃は英会話教室に通わせ、英語の授業が始まると塾に替えるという話も聞きますが、地域によって温度差があると思いますので、市として早くから取り組んでいただけるのは、素直にありがたいと考える方もいらっしゃると思います。

(委員) 学校としてはALTの力に頼るところが大きいのですが、慣れた方なら安心なので、小学校専属で置いていただけると安定した取り組みができると思います。また、あくまでもアシスタントなので、担当教師がどう準備するか、ALTとどのようにバランスをとっていくか、小学校現場でも学んでいかな

ばならないと思っています。

(委員) 私は、一つの案として、英語活動専用の教室を確保したいと考えています。

人的措置だけでなく施設面でもお願いすることがあるかもしれません。

(委員長) 様々なご意見をいただきましたが、生駒市では、特色として3・4年から英語に触れる時間を作るということによろしいでしょうか。

なお実施にあたっては、児童の興味を引くように工夫しながら、発音に慣れたり文化に親しんでもらいつつ、5・6年生へスムーズに移行するという趣旨から外れないよう気を付けてお願いします。

(異議なし)

(3) 読書活動の推進及び学校図書館の活用について（事務局から説明）

(委員長) 読書に関しては、小学校でいろいろな活動が多いようですが、幼稚園ではどうですか。

(委員) 保育として常に読み聞かせは行っており、基本的に職員ですが、スクールボランティアの方にもご協力いただいています。幼稚園児は生活経験が浅く語彙が少ないのですが、絵本を通じて語彙数を増やし、言葉を正しく覚えていきますので、読み聞かせは大切です。園としては、お母さんにも本を好きになってもらいたいので、こちらからこの本が良いと薦めたり、お母さん向けの読み聞かせ会を開くこともあります。

また、生駒市は公立の図書館がしっかりしており、ブックリストの作成等、保育に携わる者から見てもよい選定をされていると思います。

(委員) スクールボランティアで読み聞かせをしています。小学校5・6年生になると、保護者は以前ほど子どもに手をかけなくなり、読書に対して好き嫌いができてきますので、幼稚園から日々の読み聞かせで絵本に親しむよう努めていただいたり、保護者とともにという思いで取り組んでいただいたりする

ことは、とてもありがたいと思います。親子で図書館を利用するなどして、子どもたちの読書離れに歯止めがかかればいいと思います。

(委員) 小学校3・4年生ぐらいになると子どもによって好みが分かれますが、学校図書館の蔵書はどういったものを揃えているのか、また、選定方法について教えてもらえますか。

(事務局) 出版社のカタログを見ながら、司書教諭が中心になって教師が選定することが多いと思います。本の寿命というか、長く読まれるものということで文学作品中心の選考になっていると思います。

(委員) 国語学習としてはいいですが、面白くないでしょうね。

(委員) 小学校の現状としては、調べ学習の本が不足していると思います。

(委員) 中学でも図書館担当の先生が選ぶのですが、中学生向けのジュニアライブラリー、総合的な学習用や修学旅行に向けて必要な本のほか、生徒の間で話題となった本など、教師も子どもも使える本を揃えていると思います。市の中学校の先生方による図書館部会があり、学校図書館にお薦めの図書を選定したリストがあります。

(委員) 蔵書が多いのは嬉しいことですが、図書だけを論議していても読書活動にはつながらないと思います。生活に密着させることが大切ですし、公立図書館は、もっとリーダーシップを発揮していいと思います。公立図書館がお話しコンクールや読書感想文の大会などを主催し、学校へ募集をかけるなど、学校と図書館の関係をさらに深めながら読書活動の取り組みを広げていってはどうでしょうか。

(委員) 学校の昼休みは時間が短く、外へ遊びに行く子どももいますし、放課後はクラブ活動があります。私の勤務する学校では、南コミュニティセンターが近くにあり、本も充実しているので、総合的な学習では必ず利用しています。

学校図書館の充実や活用は理想ですが、実際には難しいと思いますので、

公立図書館とリンクして交流できれば効果が上がると思います。

最近の生徒は、調べることが下手でパソコンに頼りがちですが、まず本を利用し、最終的にパソコンを使うなど、教師も手法を研究しなければいけないと感じます。

(委員) 私の中学校でも自由になる昼休みの時間は15分くらいなので、図書指導は難しく、生徒会活動の図書委員はいますが、今後は学びのサポーターを利用することも考えています。本については、調べ学習で同じ本がたくさんいると感じます。

(委員長) 朝読書を取り入れている学校もあり、それなりに本は読んでいると思いますが、外に遊びに行く子どももいるので、わざわざ図書館へ行くより、学級文庫があればいいのではないのでしょうか。

(委員) すぐそばに本があって読書に親しみ、読書のよさを知ってもらえたらという思いはあります。現状として司書教諭は活用できてないので、公立図書館と学校との連携を緊密にし、公立図書館のよさを活かしたサポートをしてもらえたらと思います。

また、調べ学習で本は有効ですが、全市的に必要な本もあると思いますので、各学校で揃えるより公立図書館を核にしてデータ・ベース化するなど、連携して何かできないのでしょうか。

(委員) 小学校低学年と幼稚園は読み聞かせが重要で、積み重ねの上に読書活動があると思います。豊かな心を育めば、情緒が安定した子どもになると思いますし、感性が育ってきたら自然に本を求めると思います。

(委員) 小学校では、読み聞かせの時間は子どもたちが静かで、おとなしく座っています。やはり本と子どもの出会いをつなぐ存在は大事で、常に本のことを考える司書教諭は必要です。子どもが学校の図書館で調べものをする際、司書教諭と担任が一緒になって本を探ることができる体制を整えば、本との出

会いも広がり、安易にインターネットに頼らない学習ができるのではないで  
しょうか。

また、図書は充足率も大切ですが、鮮度も大切ですので、調べ学習に有効  
な本を新陳代謝も考慮しながら揃えていければいいと思います。予算措置は  
引き続きお願いします。

また、小学校の修学旅行はほとんど広島で、必要とする本は同じですから  
学校間で共有できればいいと思います。

(委員) 夏休み明けに生徒の読書感想文を集めて冊子にしている中学校がありま  
すが、友達がどんな本を読んだか、またどのように思ったかを知ること  
で、読書の世界が広がる良い試みだと思います。中学生の本離れが心配  
ですが、身近な友達が読んだ本なので、友情が深まったり、新たな発見  
や交流が生まれるきっかけになると思います。

(委員長) これまでの意見をまとめますと、「調べ学習で必要となる共通の本  
があり、公立図書館や学校間で連携が取ればいい」「図書館活動や図書の  
充実は、本来なら司書教諭が中心になって取り組むべきだが、担任とし  
ての仕事もあり、新たな人的措置を考えてもらいたい」「中学校は図書  
委員の生徒がおり、どのように連携していくかが課題」「幼稚園からの  
読み聞かせは大切で、将来の読書活動につながる」などの意見が出  
たと思います。ボランティアの協力を得ながら、学校と公立の図書館  
が連携してお互いを利用、活性化できればいいと思います。

(委員) 学校だけでなく家庭でも考えていくべきだと思います。

(事務局) 社会教育の担当から家庭への働きかけをしております。家庭  
教育学級というものがありまして、各幼稚園のPTAと、幼稚園がない  
鹿ノ台地区は鹿ノ台小学校のPTAが、読み聞かせのプロの方から研  
修を受けるなどの機会があったと思います。



(委員) 私の勤務する学校では、市の図書館から司書に来てもらい中学生向けのブックトークを実施する予定があります。今でも公立図書館は、様々な活動がされていますが、もっと中心になって活動すれば、学校図書館の活性化が期待できるのではないのでしょうか。

学校図書館の活性化には、学校運営、環境整備、読書活動、図書の充実、司書の役割等、多くの課題がありますが、学校と市の図書館をつなぐパイプ役の人が何人かいると良いと思います。

(事務局) 平成17年3月に「生駒市子ども読書活動推進計画」が作られており、家庭・地域・学校が協働して子どもの読書環境の整備に取り組むことを提言しています。公立図書館からは、既に一定の方向性を示されていますので、今回を機会に連携を行い、具体的に進めていければと考えております。

(委員) 先ほどブックトークの話が出ましたが、読み聞かせでも、難しい本を選んでいると感じることがあります。良い本だからと選定するのではなく、発達、発育の状況に合わせた選定をすることが大切で、読まず嫌いを招かないようにしてもらいたいと思います。

(委員) 「生駒市子ども読書活動推進計画」の「第3章それぞれの役割と責任」の中で、司書教諭・学校司書について「学校図書館の活動と運営に専心できる環境整備への努力」との記載があります。現状では司書教諭が図書館業務に専念することは難しいので、やはり人的な配慮をお願いします。

(委員長) 人的措置や、公立図書館と各校園の連携が必要との意見が多かったように思いますが、時間が押してまいりましたので、本日はこれまでとさせていただきます。

(事務局) 長時間にわたりご審議いただき、ありがとうございました。これまでの検討結果について、次回までに答申案としてまとめさせていただきます。

(4) その他

(事務局) 検討委員会では、これまで30人学級や子育て支援など、テーマを絞って検討をお願いしてきましたが、今年度は「学力育成のためのその他の方策」ということで開催しておりますので、すぐに具現化できるかどうかはわかりませんが、次回は委員の皆様から他に提案等ありましたら、ご発言いただきたいと思います。

(委員) 小学校での教科担任制など、いくつか提案したいと考えていることがあります。

(委員長) では、次回はまず答申案について検討していただき、その後、自由にご意見、ご提案等をお伺いすることにします。

続きまして、次回の会議日程を調整いたします。

(日程調整)

(委員長) それでは、次回は1月19日に開催します。

これで本日の日程を終了します。ありがとうございました。

以上